

第3学年国語科 学習指導案

日時 平成30年10月11日(木)5校時
学級 花巻市立花巻北中学校 3年1組
授業者 教諭 柏木 朋子

1. 単元名 「おくのほそ道」から、芭蕉の思いに触れてみよう

主教材：五、いにしえの心と語らう
夏草「おくのほそ道」から(光村図書3年)
副教材：東北復興平泉宣言

2. 単元について

(1)教材観

本教材「夏草」は、松尾芭蕉の紀行文「おくのほそ道」の冒頭部分と、平泉の部分から構成されている。「おくのほそ道」は、江戸時代の代表的な作品であり、日本文学史上においても価値の高い作品である。その内容は江戸を門人と出発し、奥州・北陸をまわり大垣に到着するまでの150日間、実に2400キロの旅の記録であるが、芭蕉が推敲に推敲を重ね、簡潔な漢文調で格調の高い文章である。三年間の古典学習の最後に当たって芭蕉の代表作であるこのような魅力的な文章を読むことは、それ自体大変意義深いものであり、これからの人生において古典に興味を持ち、古典を楽しむということについて有効な教材と言えよう。本教材の(1)の部分では、時間は旅人であり、人間も旅人であるという人生観が提示され、続いて自分自身の心境に転じて、旅に対する憧れ、旅の用意が語られる。(2)では、奥州平泉での藤原三代の廃墟の様子、描写に続いて、人間のはかなさについての感慨とこれと同内容の「夏草や…」などの名俳句三句が置かれる。散文と俳句が見事にとけ合い、深みのある表現を味わうことができる。また、対句表現や漢文的な言い回しは、リズムカルで音読するにも、暗唱するにも楽しんで取り組むことができ、格調高い文章を読みこなすことで古典に対する自信と興味が高まることが期待できる。

(2)生徒観

3年1組は、男女の学力差が非常に大きいクラスである。また、小学校では特別支援学級に在籍し、中学校から普通学級に入った生徒や中国籍の生徒など、配慮を要する生徒が複数いるものの、生徒どうしが受け入れている。そのため、授業の中でわからないことがあった場合、そのままにせずに質問したり聞いたりすることができる環境がある。そのような土壌から、わかったふりをせずに頑張ろうとする意欲が見られるようになってきた。しかし、下位層が多いこともあり、教科開きの際のアンケートでは、「国語の学習で苦手なこと」として、「長文を読むこと」や「自分の考えをまとめること」、「古典の学習」などがあげられた。

伝統的な言語文化における3学年の目標に、「歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。」と、「長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。」とある。しかし、学習する前から「古典は難しいもの」という考えがあっては、親しむどころか読解は難しい。そこで、今回の学習を通して、古典が「全く別世界のもの」という気持ちがいくらかでも払拭され、苦手意識が少しでもなくなればと考えている。

(3)指導観

平泉が世界文化遺産に登録決定した。11世紀、奥州藤原氏が極楽浄土を作ろうとし、平泉の文化遺産が作られてきた。芭蕉が見た風景は、「夏草」にみられる自然豊かな平泉である。しかし、その裏には歴史に名を残す武将たちへの思いが生きているものと考えられる。芭蕉が見たものは悠久の自然。そして、過去の武将の姿を思い描き、涙を落すまで感慨にふけった芭蕉の思いに触れてほしいと考えている。

また、本単元では、「東北復興平泉宣言」を引用して、芭蕉の思いとともに平泉の価値についても考えさせていきたい。

(ユニバーサルデザインの視点から)

配慮を要する生徒だけでなく、すべての生徒が「困っていることを教師や友達に伝えることができる」という安心感を持たせることが大切であると考えている。また、「共に考えよう」、「共に助け合おう」といった生徒どうしの関係作りをすることも大切であると考え、学級作りを心がけてきた。

学習や生活の場面では、伝えることは「ゆっくり」「短い言葉で」話をする、手本や見本を提示しながら、手順を明確に伝えるようにしている。

3. 単元の目標

- (1) 意欲的に古典を読み味わって、自分の意見をもととする。 【国語への関心・意欲・態度】
- (2) 古典を読んで作者の思いを考え、自分の意見をもつことができる。 【読むこと】
- (3) 類似したテーマの文章を読むことで、自分の考えを深めることができる。 【読むこと】
- (4) 歴史的な背景に注意して古典を読み、その世界に親しむことができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4. 単元の指導計画

一次では、冒頭部分を扱い、芭蕉の旅に対する思いや、人生観について考えていく。2年生で学習して以来の古典であるため、音読、仮名遣い、現代語訳などを丁寧に行いながら進める。読解では、前書きの働きをしている散文の表現から読み取れる内容をふまえて、俳句に表れている作者の思いを考えるようにしたい。

二次では、「平泉」の部分の扱い。冒頭の「旅立ち」の部分の学習をふまえて、地の文と俳句のつながりをはっきりと意識させて、俳句に込められた思いを考えさせたい。また、達増知事の「東北復興平泉宣言」から、平泉が世界文化遺産に登録された理由と芭蕉の思いを合わせて考えさせたい。

次	時数	主な学習活動	評価方法
一	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「旅立ち」について、音読・仮名遣い・口語訳・文学史について学習する。 ・芭蕉の旅に対する思いを自分の言葉で書く。 ・俳句に込められた思いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○冒頭部分を暗記している。 (暗唱テスト) ○古語の意味を理解できる。 (ノート) ○旅に対する思いをまとめる。 ○芭蕉の旅に対する考えを理解する。 (学習プリント) ○俳句に込められた作者の思いをまとめる。
二 (本時 その2)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「平泉」について、音読・語句の確認、口語訳を考える。 ・「夏草や…」の俳句に込められた思いを考える。 ・金色堂で読んだ俳句に込められた芭蕉の思いを理解する。 ・「平泉」に込められた作者の思いを考える。 【副教材：東北復興平泉宣言】 	<ul style="list-style-type: none"> ○音読できる。(観察) ○古語を理解することができる。 (学習プリント) ○涙を落した芭蕉の思いを考えることができる。 (学習プリント) ○金色堂に対する思いを理解することができる。 (学習プリント) ○「平泉」に込められた作者の思いを考えることができる。 (学習プリント)

5. 単元の評価規準

単元名 「おくのほそ道」から、芭蕉の思いに触れてみよう		
ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・「おくのほそ道」を読み、様々な見方で読み味わって自分の意見をもととしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おくのほそ道」を読んで、文章に表れているものの見方や考え方の違いを整理し、人間、自然などについて自分の意見をもっている。 ・「東北復興平泉宣言」をあわせて読むことにより、新しい魅力を知ったり自分の考えを深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しんでいる。

6. 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・俳句と地の文のつながりを考えながら、作者が俳句に込めた思いを考えることができる。
- ・芭蕉が涙を落として俳句を詠んだ思いが理解できる。

(2) 指導の構想

本時は、自分の考えに広がりや深みを持たせるために、級友の意見を聞いたり、話し合ったりする場を持つ。はじめは自分の考えが持てない生徒も、友達の意見を聞いて自分の考えに付け加えたりすることができるようにしたい。古典が現代でも読み継がれている意義を感じられるよう学習活動を工夫したい。

(3) 本時におけるユニバーサルデザインの主なポイント

① 授業の構成

- ・学習の流れを提示し、生徒が見通しを持ち学習に取り組めるようにする。【時間の構造化】
- ・活躍の場、助け合いの場、互いの良さを確認する場を設定する。【クラス内の理解促進】

② 教材・教具

- ・具体物、写真、視聴覚機器などわかりやすい教材、教具を使っている。【視覚化】

(4) 本時の展開

過程	学習内容	学習活動	指導上の留意点	UDの視点
導入 (5)	1. 「平泉」の部分の音読 (一斉) 2. 課題の提示	・「平泉」の部分の音読をする。	・意味を思い出しながら音読できるようにする。	・声の大きさ、一斉読の良さを評価 【クラス内の理解促進】
「夏草や…」の俳句に込められた芭蕉の思いを考えよう。				
展開 (35)	3. 学習の見通し 4. 地の文の単語の分類 (自然と人工物) 5. 俳句に込められた芭蕉の思い 個人→グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の手順を聞く。 ・地の文の単語から、「夏草」と「つはものどもが夢の跡」に関係するものに分ける。 ・「春望」の引用について考える。 ・芭蕉が「高館」で何を見て何を感じたかを読み取り、その心情について考える。 ・グループで出た意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏草：田野・金鷄山・草むら北上川・衣川・草木… ・つはもの：大門の跡・旧跡・高館・和泉が城・泰衡らが旧跡・国… ・脚注を参考に、芭蕉が「春望」を引用して目の前の平泉の風景から往時に思いをはせた理由について考えさせる。 ・地の文を踏まえて、なぜ芭蕉が涙を落したのかを考える。 ・さまざまな意見を取り入れられるよう、班員の考えを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れの提示 【時間の構造化】 ・平泉の様子を 書画カメラで提示 【視覚化】 ・グループでの話し合いを取り入れることで、古典についての自分の意見を全員に表現させる機会を確保する。 【クラス内の理解促進】
終末 (10)	6. 学習のまとめ	・今日の授業で出た考えを参考にして、俳句に込めた思いを書く。	【評価】交流の中で、仲間の意見を参考にしながら、芭蕉の俳句に込めた思いを考えたことができたか。	

(5) 本時の評価

- ・俳句と地の文のつながりを考えながら、作者が俳句に込めた思いを考えたことができたか。
- ・芭蕉が涙を落として俳句を詠んだ思いが理解できたか。